

財務部の方針書

部 名	財務部
部長名	小松 忠昭

1. 部の使命(ありたい姿)

市の総合計画で描くまちの将来像実現のため、財源の確保と適正な配分により、健全で持続可能な地域社会の実現を目指します。	
担当政策	政策7:横手を思い、市民の想いを実現させる創造的な行政経営を進めます
担当施策	7-2:財源確保と効率的・効果的な財政運営の推進

2. 部の抱える課題(現状)

<ul style="list-style-type: none"> 横手市財産経営推進計画並びに横手市公共施設個別施設計画の着実な推進 第2次総合計画後期計画と連動する財政計画の進行管理、大型公共施設整備事業推進のための適正な財政運営 申告相談職員の減少に伴う相談業務の効率化 適正で効率的な債権管理による自主財源の確保 効率的な契約検査事務の遂行
--

3. 今年度の『スローガン』

<p>◎常に住民サービスの向上を心掛けて業務に臨もう</p> <p>◎正確な知識を習得し、正しく活用しよう</p>

4. 今年度の方針

<ul style="list-style-type: none"> 横手市財産経営推進計画(FM計画)並びに横手市公共施設個別施設計画のローリングと着実な推進 大型公共施設整備推進などの財源確保に努め、財政の将来見通しを的確に作成し、健全財政を堅持する ルールに基づいた債権管理の推進と案件ごとの対応強化 持続可能な申告相談体制の確立と公平公正な課税の推進 大型公共施設整備など市の発注についての公平公正な入札事務の執行と公共工事の品質確保
--

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	横手市財産経営推進計画(FM計画)並びに公共施設個別施設計画のローリングと着実な推進
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設の現状(利用状況、老朽度等)を把握し、施設所管課とのFM小会議を開催しながら、再配置方針・スケジュールを着実に実施する FM計画推進マニュアルを活用した庁内向け勉強会を開催する 各施設に再配置方針を表示することで、FM計画への理解を促す
(2)	実現したい成果	持続可能な財政運営を見据えた予算執行と令和6年度当初予算の編成
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 自主財源の確保と一般財源の適正な配分 新たな事業展開のために、事務事業のビルド&スクラップ意識を徹底する 注目度の高い大型公共施設整備をはじめ、契約事務の適正で効率的な執行に努める。 令和4年度決算分析と財政の将来見通しを的確に把握するとともに、持続可能な財政見直しを作成し情報提供する 持続可能な申告相談体制構築のため、住民アンケート結果等を参考に課題の洗い出しを行い、将来体制を検討する。
(3)	実現したい成果	ルールに基づいた債権管理の推進と案件ごとの対応強化
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 債権管理のルールに基づいた適正な管理を徹底する。 強制徴収公債権については徹底した財産調査に基づく滞納処分を執行する。 全庁的に法的措置が必要な未収債権の回収に債権収納管理一元化制度を活用する。 債権管理スキルの向上を目的とした研修会への派遣と庁内研修を行う。

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- ・市有建築物定期点検マニュアルを新たに整備した。またネーミングライツについて、8/1市報及びHPにて募集を実施、分譲宅地の価格変更を行い、新たに6区画の売買契約締結にいたった。
- ・「よこての未来創生プロジェクト」の今年度の事業化について関係課協議、4役協議を経て、庁内プロジェクトチームを結成した。
- ・公共工事等の品質確保のため、発注が不慣れな部門への起工前から検査までのフォローを実施した。
- ・申告相談システム操作についてマンツーマン講習を上半期中に2回講習を実施した。
- ・電子預貯金照会(ピピットリンク)等、徹底した財産調査に基づく滞納整理を実施した。また、差し押さえ土地の公売(1件)を行った。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- ・各業務の内容について、正確な情報を市民等にお知らせしていく。
- ・各施設の再配置方針・スケジュールの着実な実施に向け、施設の利用状況と老朽度等を踏まえたFM小会議(FM事務局と施設所管課等)を開催する。
- ・「よこての未来創生プロジェクト」の検討継続と事業化を推進する。
- ・発注課監督職員への指導や公平かつ公正な入札事務の執行を継続して実施する。
- ・引続き、納期内納付の促進、新規滞納者の発生を抑制していく。
- ・市全体の職員数が減ってくることを視野に入れ、申告体制もより効率的な体制となるよう検討する。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- ・住民サービスの向上に向け、具体的な取り組みを行った。
- ・FM計画において再配置方針が「譲渡」となっている施設を対象に、FM推進小会議を開催し、譲渡交渉相手方との譲渡に向けた協議内容や施設に対する考えを共有した。今後、ローリング方式によりFM計画に反映する。
- ・令和6年度予算編成については、物価資材高騰、人件費アップという厳しい状況下であったため、基金頼みの編成となった。歳入に見合った編成にはまだまだ課題も多く、歳入確保と事務事業の見直しの徹底を継続して実施する。また、ビルド&スクラップの実効性を確保する手法について検討を進める。
- ・特定債権の担当者をサポートし、税以外の未納債権の圧縮に努めた。また今年度も、差押物件の公売を行った。財産調査については、今年度から電子化を活用し、効率的に実施した。5年の単純時効件数を無くすべく、徹底した財産調査と徹底した滞納整理(差押え・執行停止)を行う環境整備に努めている。
- ・申告相談については、郵送での申告や確定申告をe-Taxなどの電子申告に誘導する取り組みを行ったことにより来場者数は減少傾向となっている。今後の職員数減少も見込み、将来的な申告会場の見直しを見据えて、申告会場を一日4箇所に見直し実施した。場所や日程については今後も引き続き検討を行う。
- ・工事に不慣れな発注課に対し、工事の進捗状況等のチェックを徹底し、品質確保につなげることができた。今後も工事受注者に対して、施工途中のフォローアップを実施し、「劣る工事」の根絶に努める。